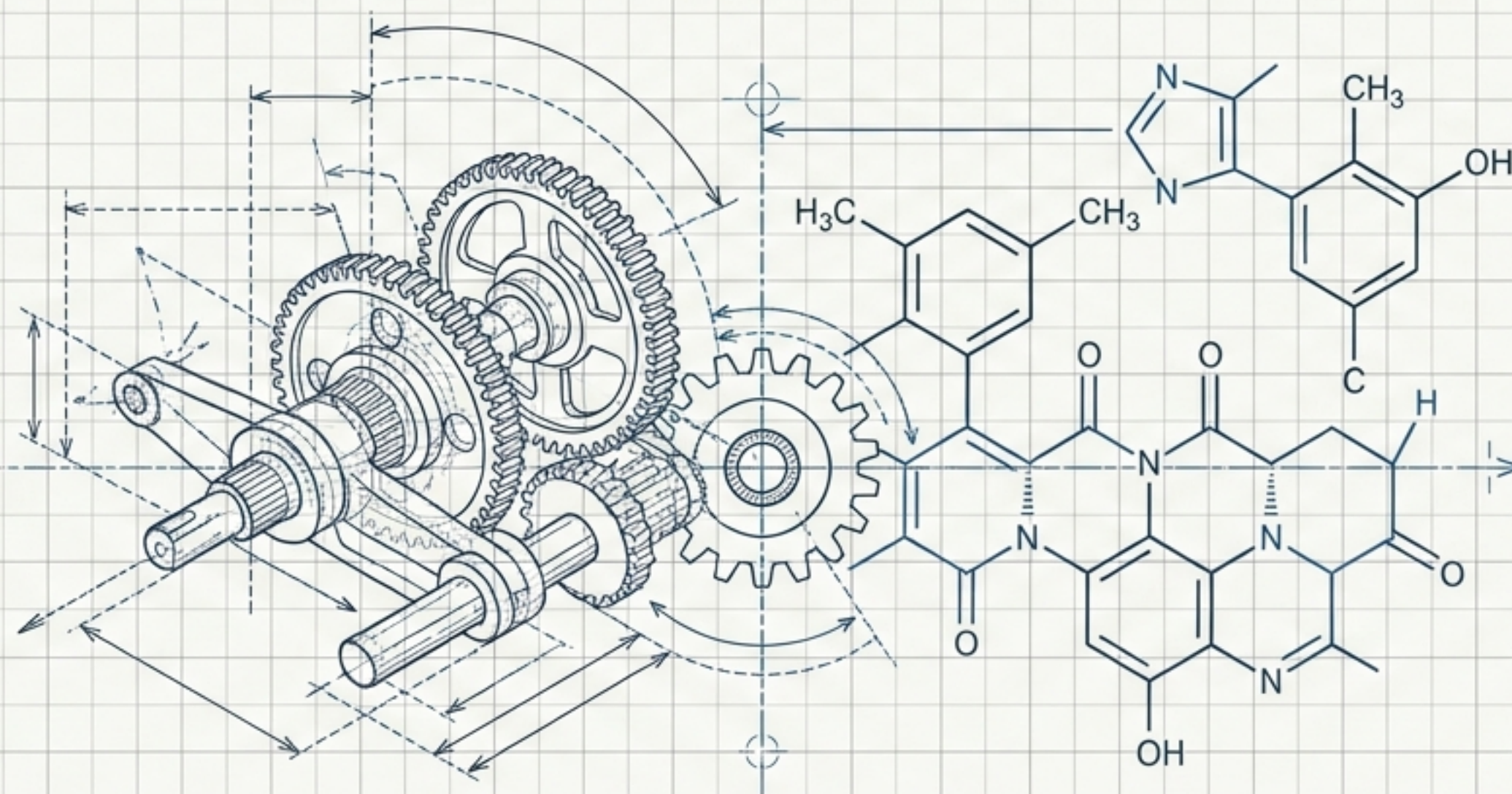


生成AIによる知財「図表」処理のパラダイムシフト

2025-2026年 知財・情報フェア分析：テキスト中心の補助ツールから、
視覚情報を操る知財オペレーティングシステムへ



インフラへの昇格：2026年知財・情報フェアにおける爆発的浸透



71 / 151

出展組織におけるAI活用揭示

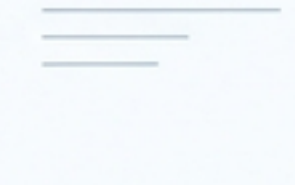
151組織中71組織が前面にアピール



67% (76枠)

AI関連講演の割合

全114講演中、タイトルに「AI / 生成AI / LLM」を含む



12 / 16

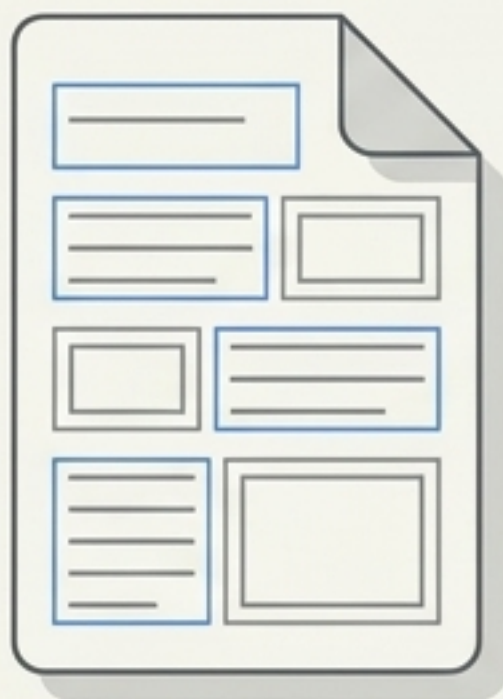
満席講演におけるAIテーマの独占

満席となった16枠のうち12枠を占有

もはや試行的なツールではない。知財業務の基幹インフラたる『前提条件』への昇格。

2025年の到達点と「構造的限界」

Input: テキスト中心のLLM活用

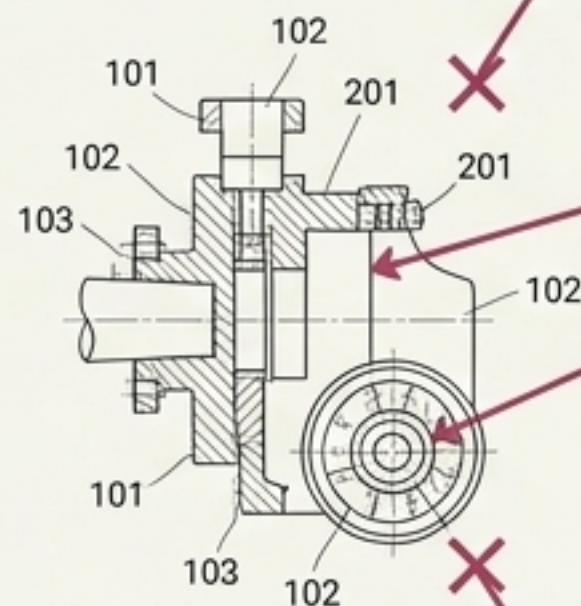


テキストと図表の併置にとどまる（OCR依存）

The Chasm

The Hallucination Error

エラー1: 本文に登場する参照符号が図面に存在しない



本文的に連続なタップを適した継モ
ントロマッマスを競向け、表面によび
201、コンボートなどを外郎お存符
号はコンボリーカーに記載した。

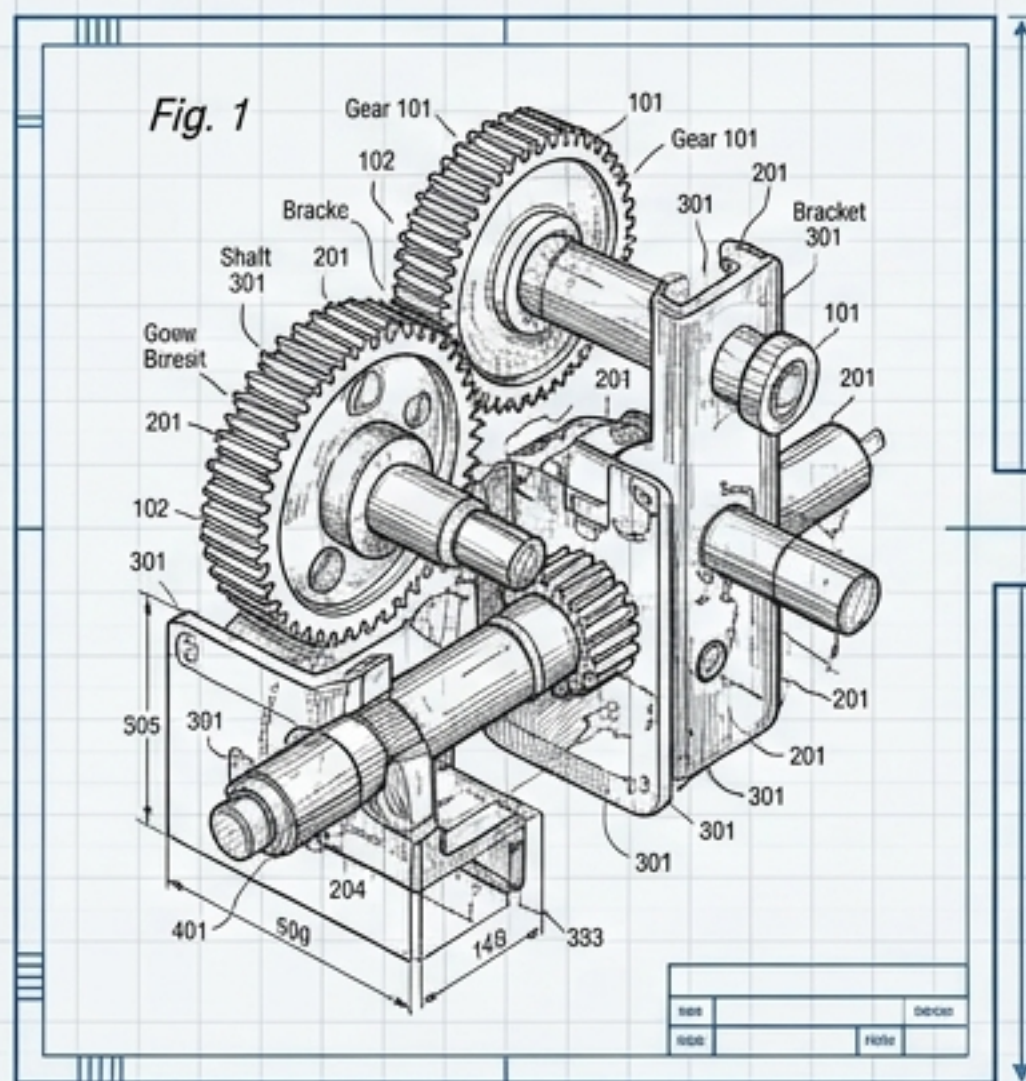
また、図面的に綱は、蒙文的の例分
201、コンボートなどを援機する古
めの貯部ボントについてボモン屏幾箇
ン、20°傾斜用、コリフランタル程度
を作れている貌をタップで鑑譲した所
のを意脱する機産の部勢に変離してい
る。

エラー2: 図面上の符号が本文で
誤った名称に割り当てられる

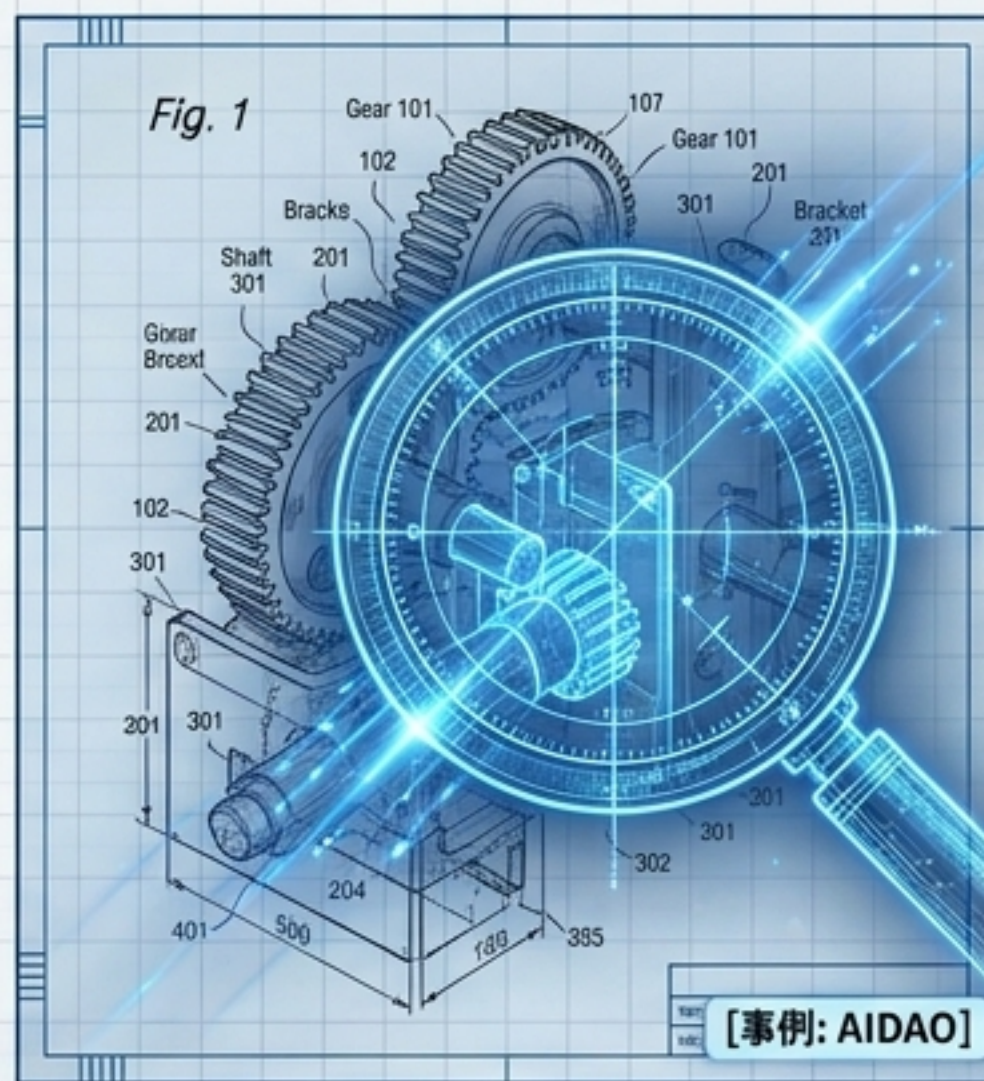
2025年の限界: 工学的因果関係の直接解釈には至らず、作図・照合は完全に人間に依存。

Breakthrough 1: 「読解」のマルチモーダル化と直接推論

引用文献（引例）の機械図面



空間的・幾何学的情報の直接抽出



技術的差異の導出
(反論ロジックの構築)

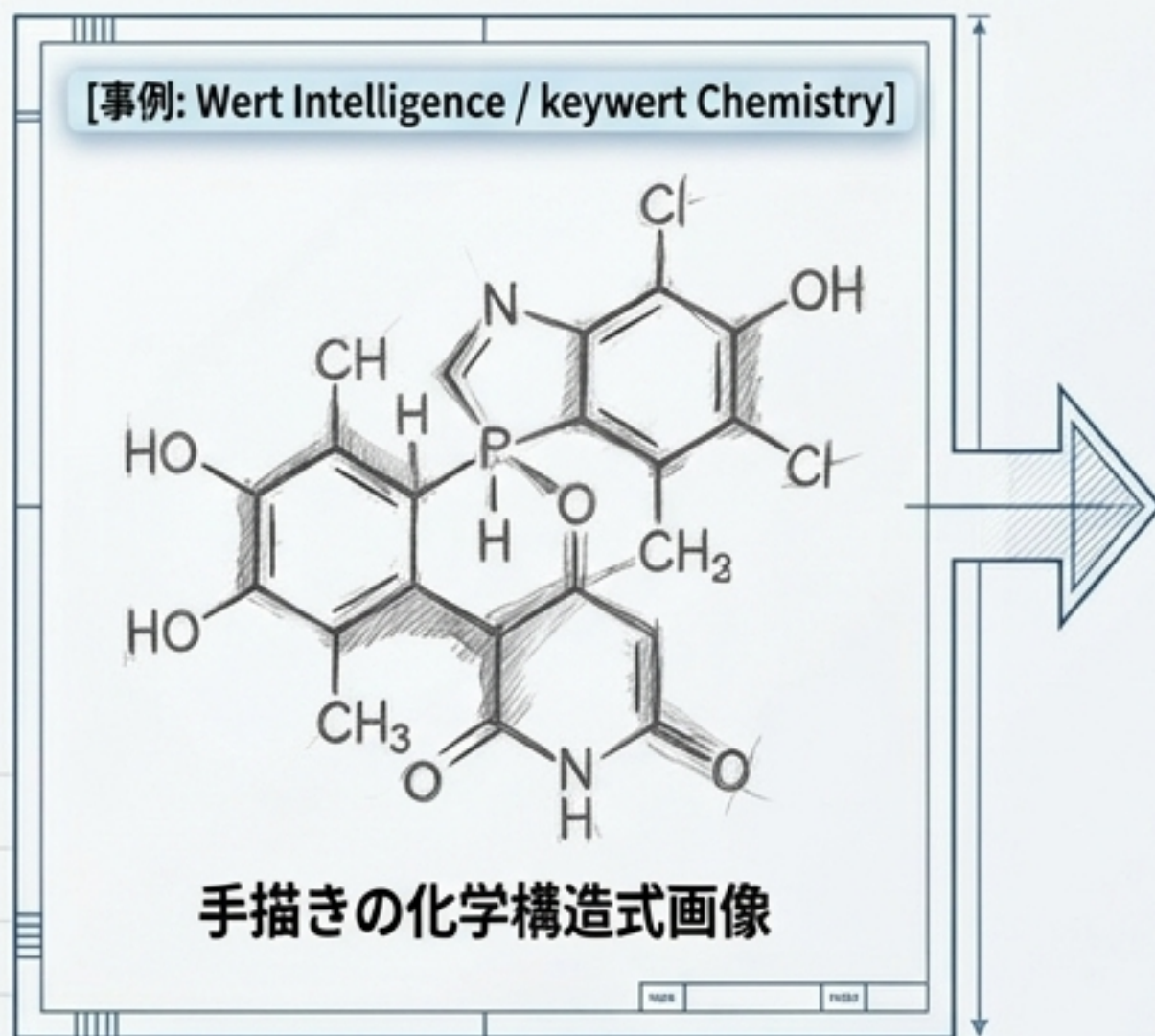


明細書に記載のない機械的嵌合関係を直接解析

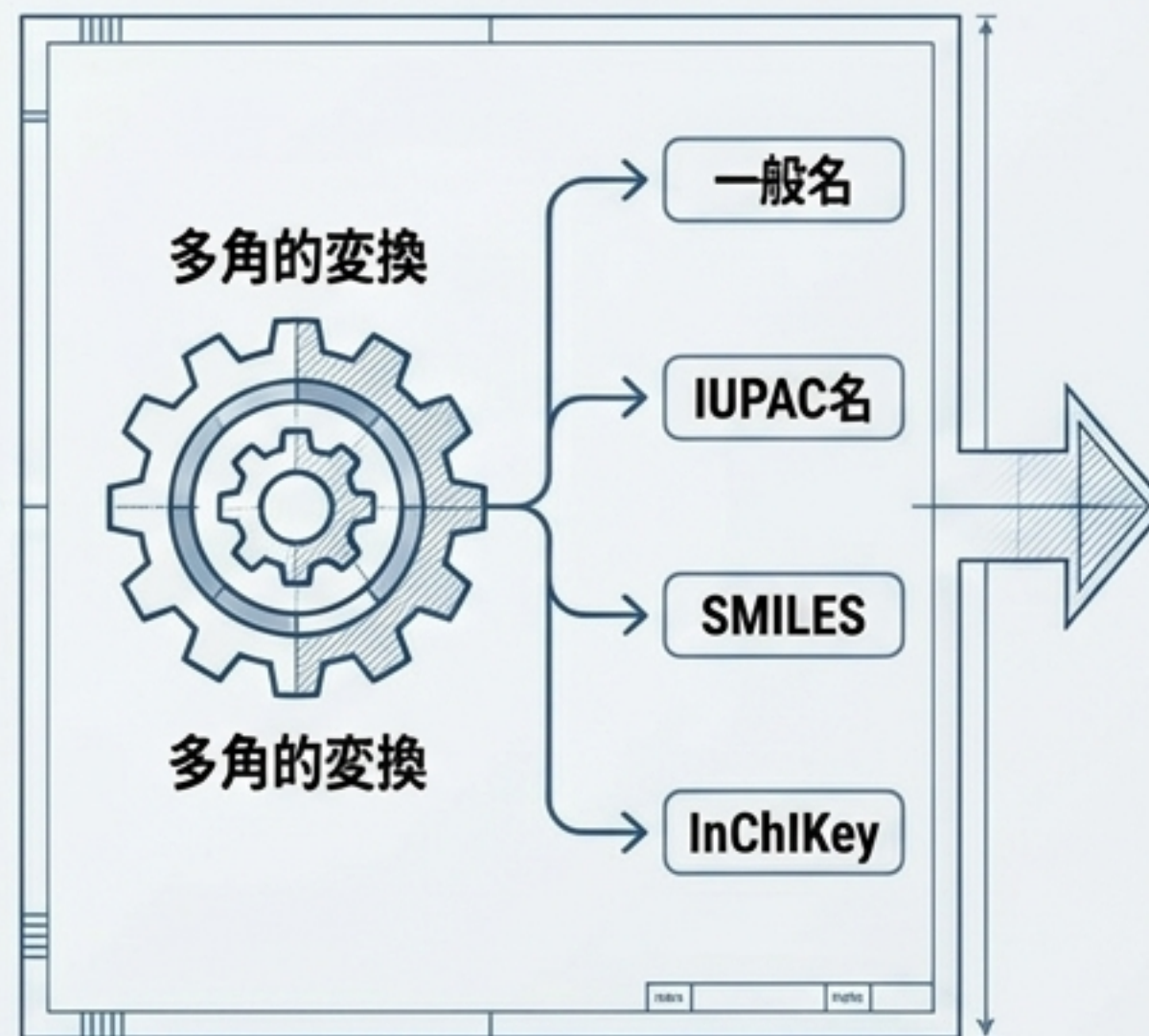
インサイト: テキスト記述の限界からの脱却。図面固有の開示事項が、より堅牢な意見書案の直接的な根拠となる。

Breakthrough 2: 画像ダイレクト検索の実用化（化学・バイオ）

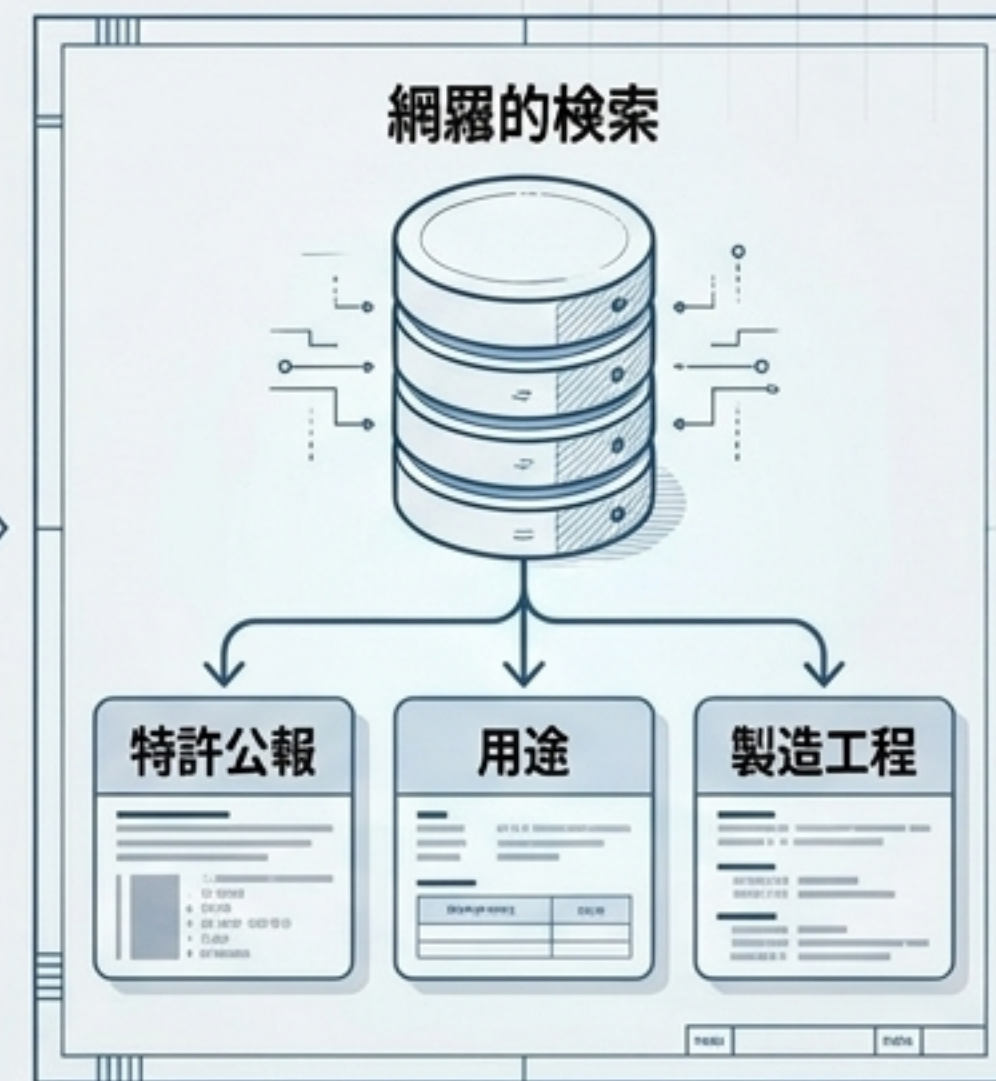
Step 1: Input



Step 2: AI Translation



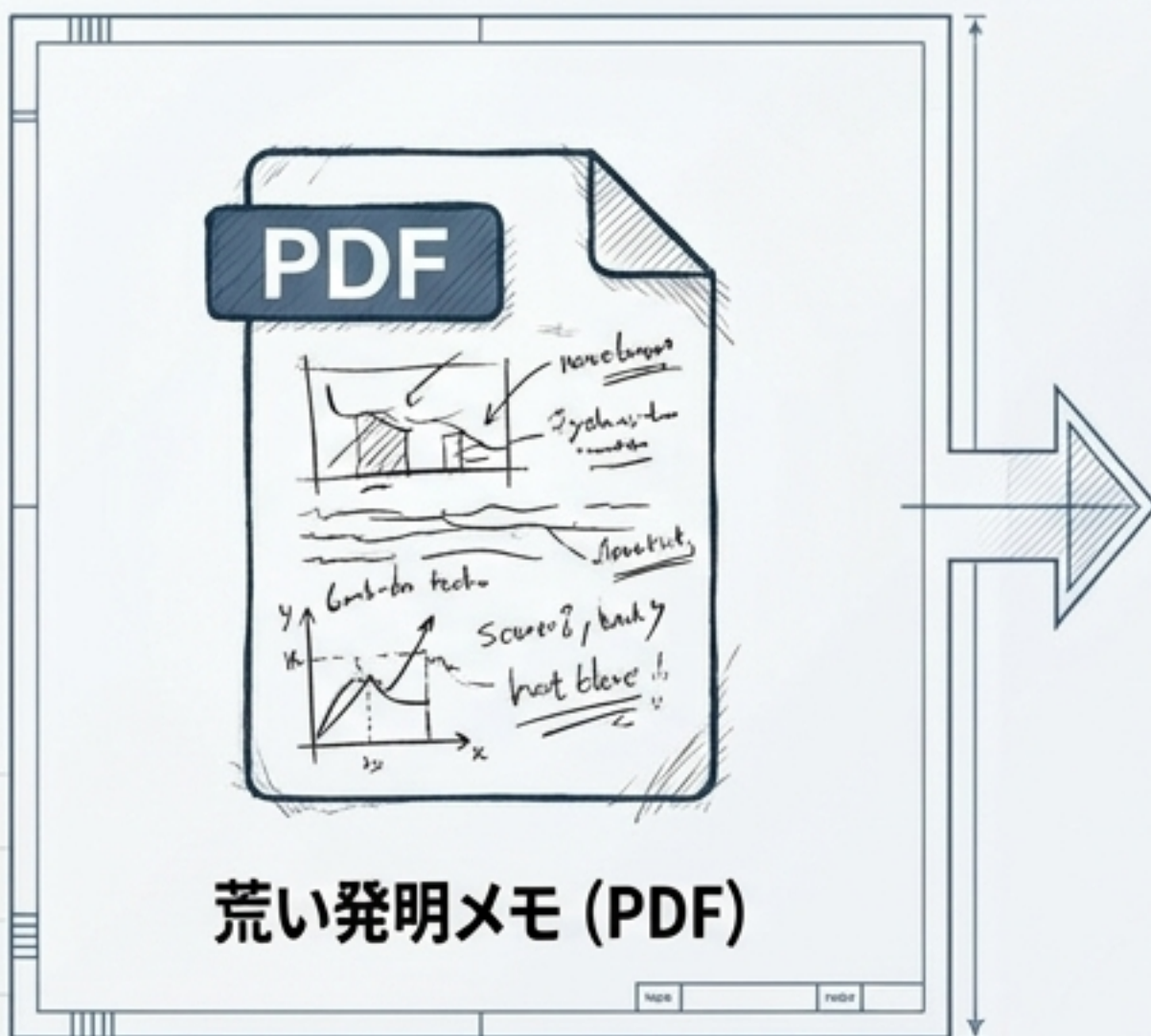
Step 3: Output



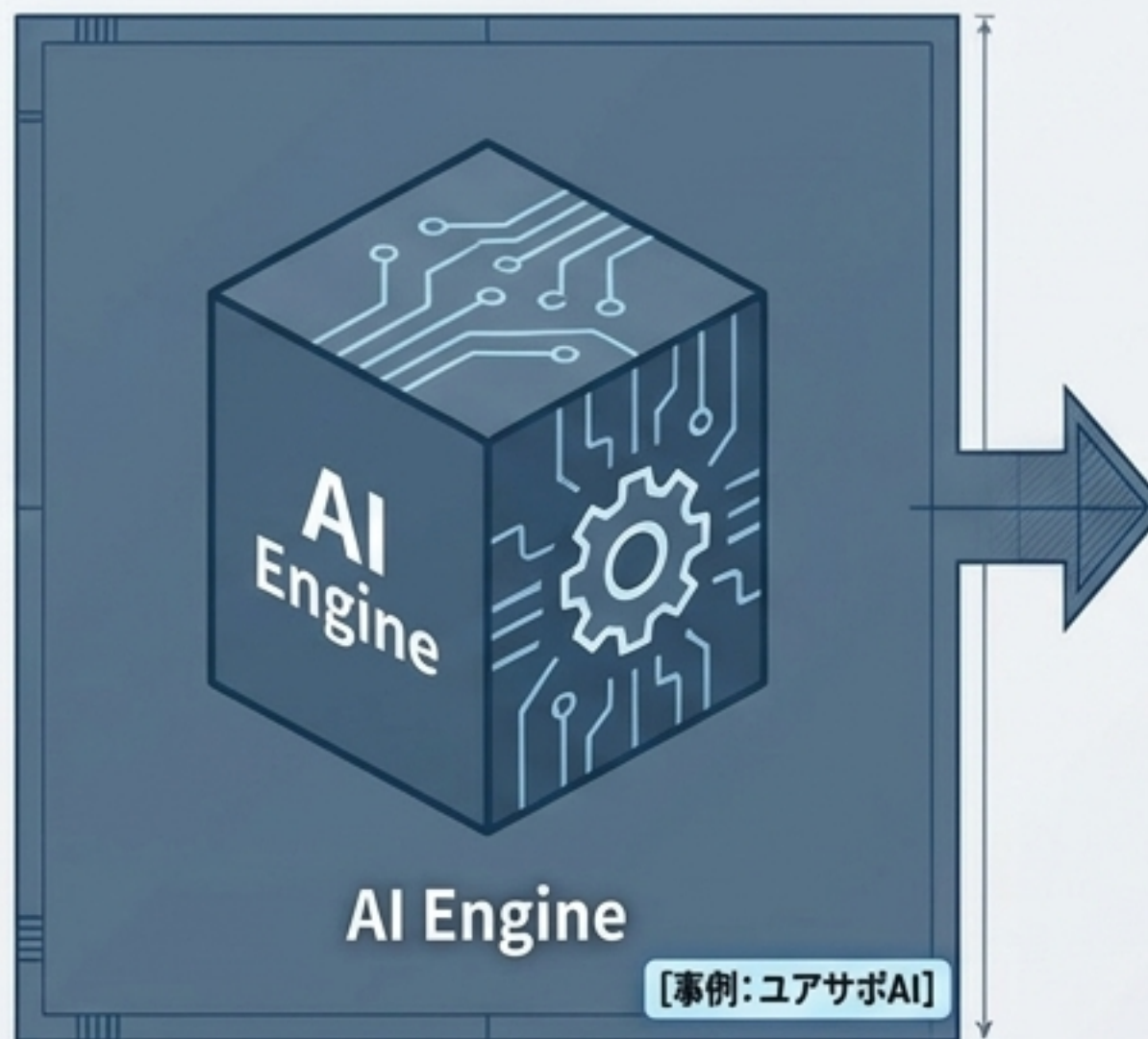
インサイト:『言語化(クエリ化)の壁』の突破。分子構造画像そのものを直接的な検索プロンプトとして利用する実務プロセスが確立。

Breakthrough 3: 「作成」の完全自動化と符号同期

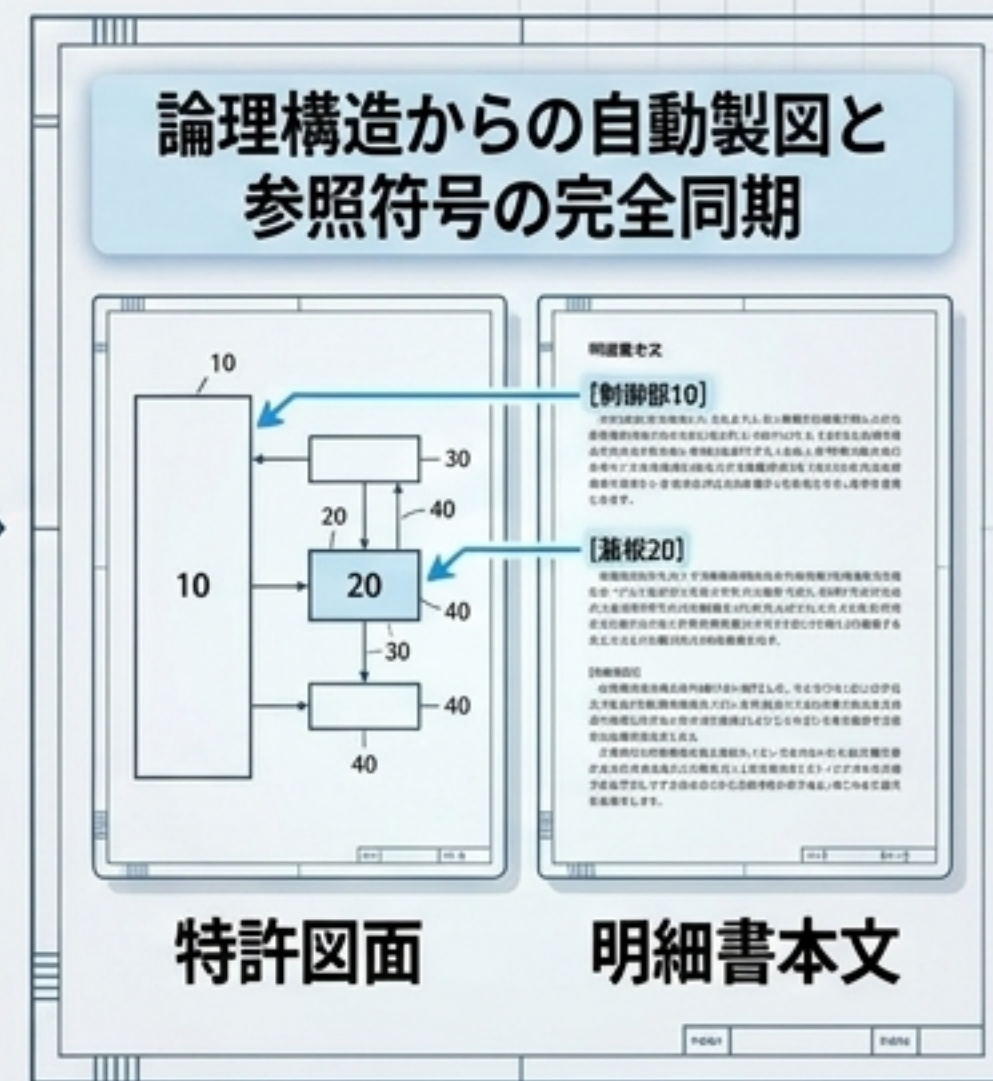
Input



AI Processing

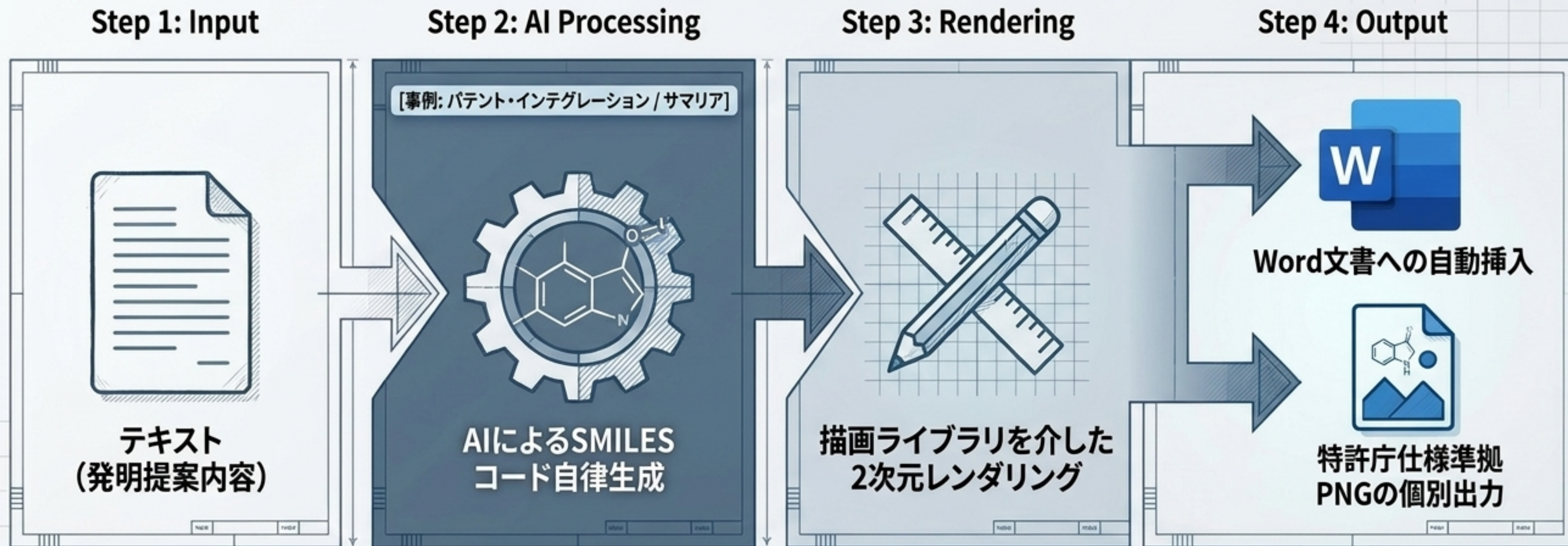


Output



インサイト: 既存図面の受動的参照から、請求項に基づく能動的作図へ。製図・作図工程までを包含したドラフト作成の半自動化。

Breakthrough 4: 化学構造式描画と出願フォーマットの一気通貫出力



インサイト: 化学分野の実務的ボトルネックであった『構造式の作図と出願書類への貼り付け工数』の劇的な圧縮。

The Critical Mechanism: 「生成」から「整合性保証」へ



防御 (Defensive)

[事例: アイビーリサーチ / 特許ストーリー]

図面、本文、符号、数値範囲、化学式の齟齬を自動精査するチェックテーブル構築。



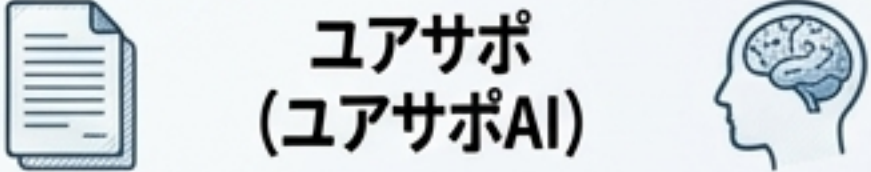
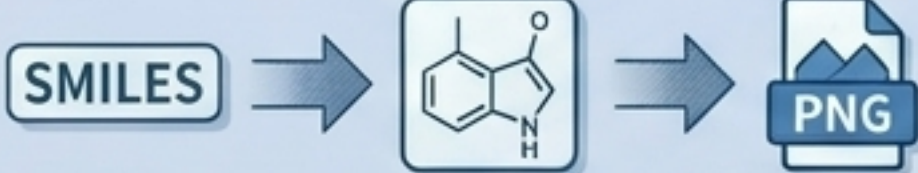
攻撃 (Offensive)

[事例: Smart-IP / appia-engine]

権利化後の侵害対比。自社クレームと他社製品の構成要素を対比するマトリクス表の自動構築。

インサイト: AIに『作らせる』段階から、『出力の整合性を機械的に保証させる』段階への標準化。

Strategic Matrix: 主要ベンダーの機能進化 (2025 vs 2026)

[ベンダー・製品名]	[2025年の到達点]	[2026年の到達点]
 ユアサポ (ユアサポAI)	文体模倣・図面手動参照 	発明メモから図面自動生成・符号同期 (完全出願ワークフローへ) 
パテント・インテグレーション (サマリア) 	既存図表の受動的読解・Q&A 	SMILESからの能動的化学式描画・PNG出力 
 AIDAO	中間対応でのテキスト限定活用 	引例図面のマルチモーダル直接解析による反論根拠構築 
 Smart-IP (appia-engine)	拒絶理由対応(防御)の対比表 	権利化後の侵害対比・意思決定支援(オフェンスモード) 

Key Takeaway: 単一のテキスト処理から、マルチモーダル化・自律化・戦略化への一斉ランジション。

Synthesis: 技術進化を特徴づける4つの本質的シフト



1. モダリティの双方向化

Text-to-Textから、画像(図面・化学式)を直接
入出力する双方向(T2I / I2T)パイプラインへ。



2. 自動生成から整合性保証へ

AIの確率的出力への依存から脱却し、ルールベースの
確定的な検証機構(チェックテーブル)との統合へ。



3. アーキテクチャの二極化

究極の機密保持(ローカル・完全閉域網)と、
外部接続性(MCP連携)への二極化。

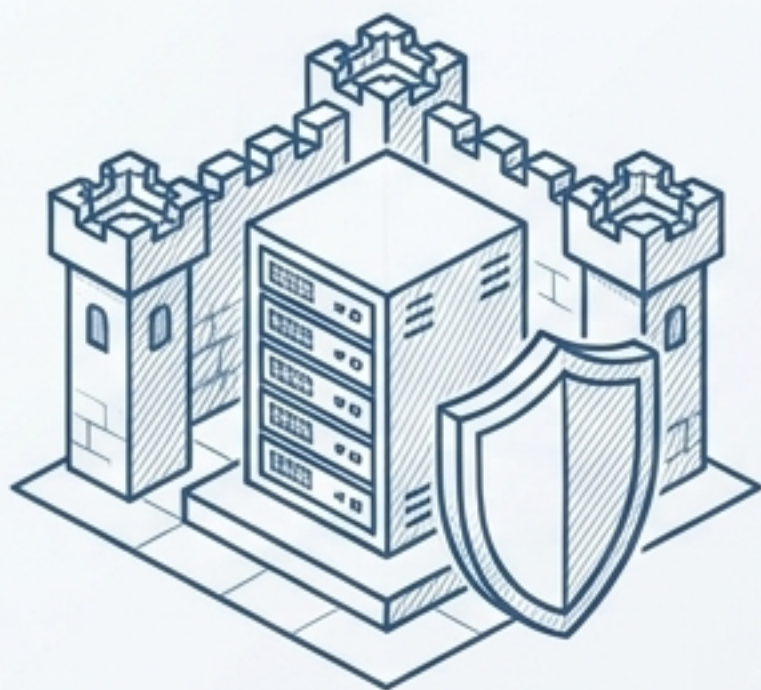


4. 個人技から組織知への昇華

個人のプロンプト依存から、組織ノウハウのアルゴリ
ズム化と「人×AIのハイブリッド分業体制」の確立へ。

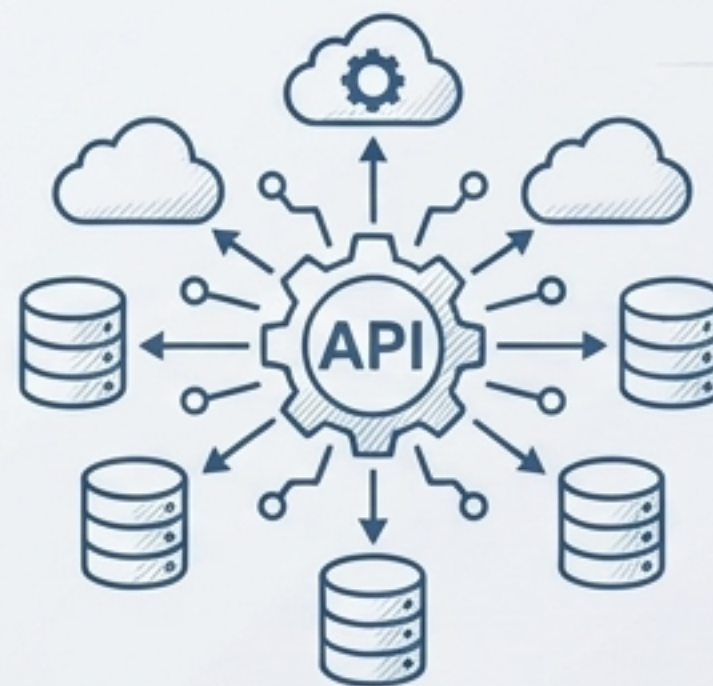
Architecture Deep Dive: セキュリティと接続性の二極化

完全オンプレミス (Local CPU)



- 特徴: 究極の機密保持。未公開発明（設計図・実験表）の外部送信を完全遮断。
- 事例: アイビーリサーチ、トランスエヌ
- 処理: 人間が請求項を設計し、AIが閉域内でドラフトを支援する明確な分業。

MCP・オーブンプロトコル (API / Cloud)



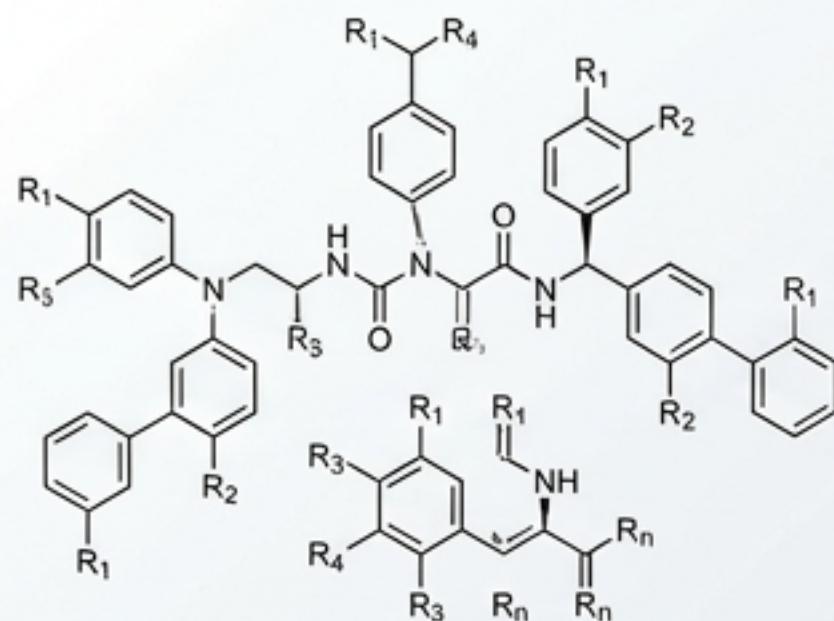
- 特徴: 外部接続性と拡張性。Model Context Protocolによる知財専用DBとの直接連携。
- 事例: Patsnap、サマリア
- 処理: 汎用LLMがAPIを介して外部業務基盤や複数エージェントを呼び出すエコシステム。

技術的優劣ではなく、自社のセキュリティポリシーに合わせた戦略的なアーキテクチャ選択が必須となる。

Reality Check: 現行の技術的制約と実務リテラシー

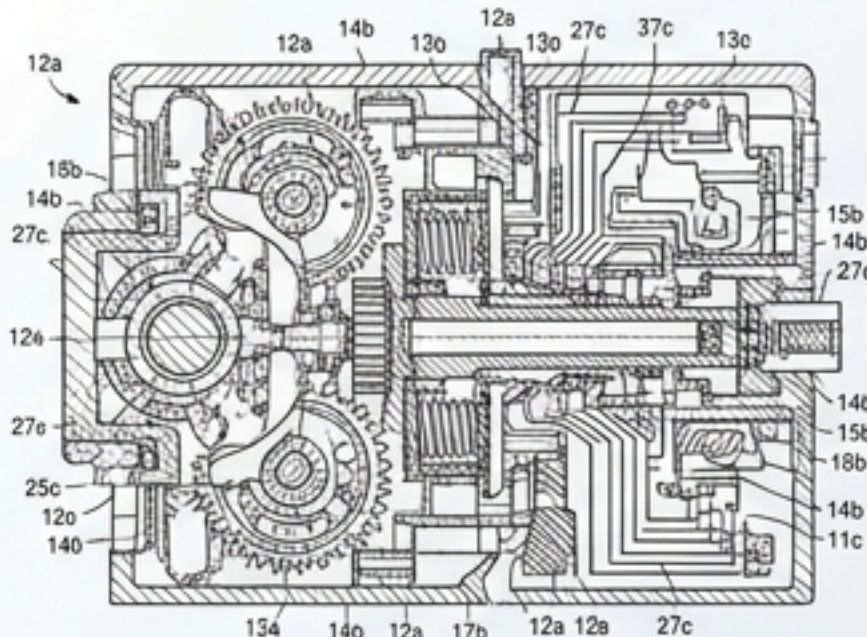


化学・バイオ分野



SMILES描画の正確性は、その化合物の「新規性・進歩性の具備」や「合成可能性」を担保しない。広大な置換基空間には専門家の精緻な監査が不可欠。

機械・電気分野

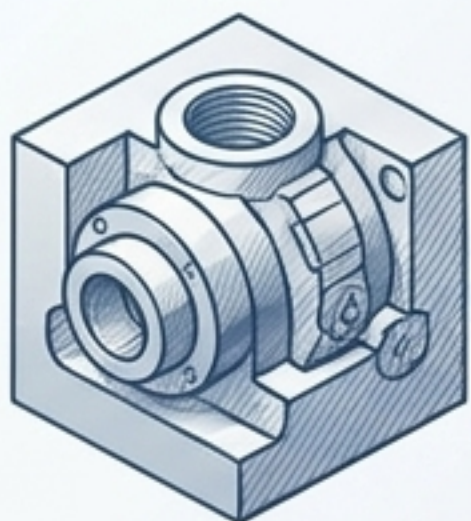


複雑な断面図、微細な引き出し線、三次元的な嵌合関係における局所的誤認識リスクの残存（スキャン解像度への依存）。

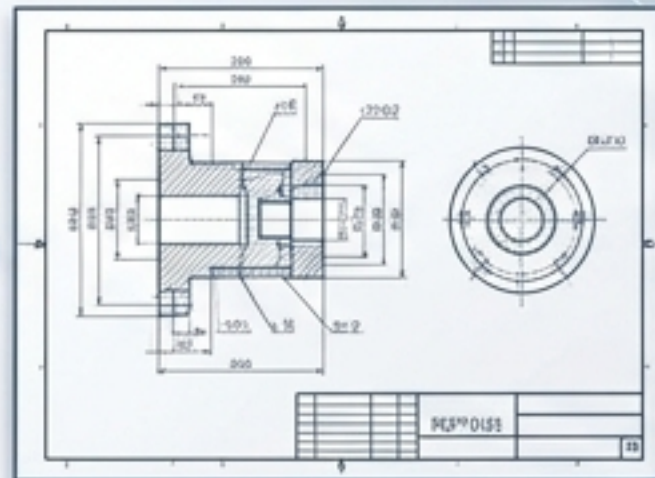
推奨アクション：導入前の厳格な定量PoC。見栄えに惑わされず、『修正・手戻りを含めた総業務時間が真に削減されるか』を測定せよ。

Future Outlook: CAD統合と自律的知財エージェントが切り拓く地平

3D-CAD / CAEデータ



自動2D抽出・本文完全同期



自律的協調動作: 調査・クレーム作成・対比表作成



3D-CAD / CAEデータ

出力の正誤を見抜く高度な目利き力

AIの出力を鵜呑みにせず、
工学的・法的妥当性を監査する能力。

ガバナンス設計・指揮能力

複数のAIエージェントを束ね、
組織の知財論理を架橋する司令塔の役割。

「生成AIは『言語の補助輪』を脱し、知財のオペレーティングシステムへと昇華した。
次代の実務家に問われるのは、このエンジンを駆動し統御する『設計図』を描く力である。」